

12. 北太平洋マグロ類資源管理調査事業

北太平洋マグロ類資源管理調査

海洋資源科

1. 目 的

本事業は水産庁の委託を受け実施しているもので、北太平洋のマグロ類、特にクロマグロの生物学的情報を収集・解析し、資源評価、資源管理のための基礎資料を整備することを目的とする。

2. 実施概要

2. 1 方 法

平成5年度北太平洋マグロ類資源管理調査委託事業実施計画書に基づき実施した。

2. 2 委託調査項目

クロマグロ幼魚の標識放流

2. 3 実施期間

平成5年7月20日～平成6年3月25日

2. 4 担当者

海洋資源科 主任研究員 黒岩 隆

3. クロマグロ幼魚（ヨコワ新仔）の標識放流概要

3. 1 標識放流

○平成5年8月6日～8月21日に、高岡郡中土佐町上の加江（加江崎）地先において1,000尾を標識放流した。

表1 標識放流概要

放 流 年 月 日	平成5年8月6日～8月21日
放 流 位 置	高知県高岡郡上の加江 地先
放 流 尾 数	1, 0 0 0 尾
魚 体	尾叉長 18～30cm (100～350 g)
標 識 の 種 類	ダート型（矢尻型）65mm 黄色 黄色のビニールチューブ KOCHI JAPAN 0001 KOCHI JAPAN 1000

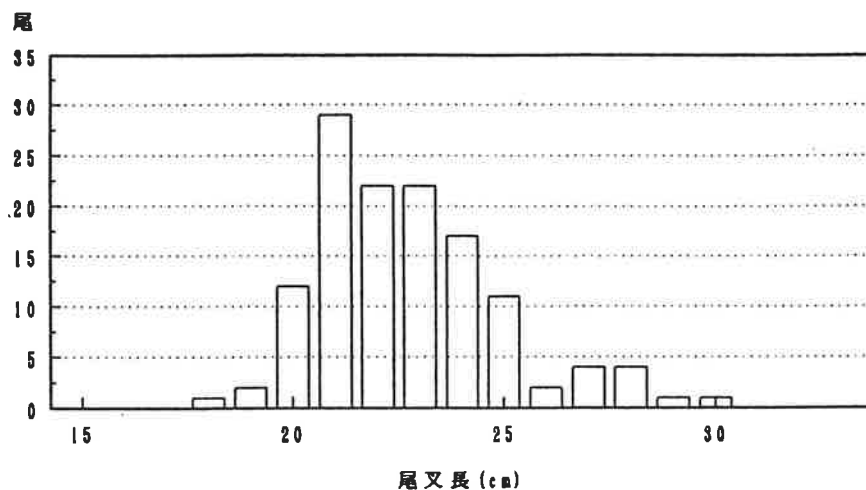


図1 放流ヨコワの体長組成（放流期間中に別途市場で測定）

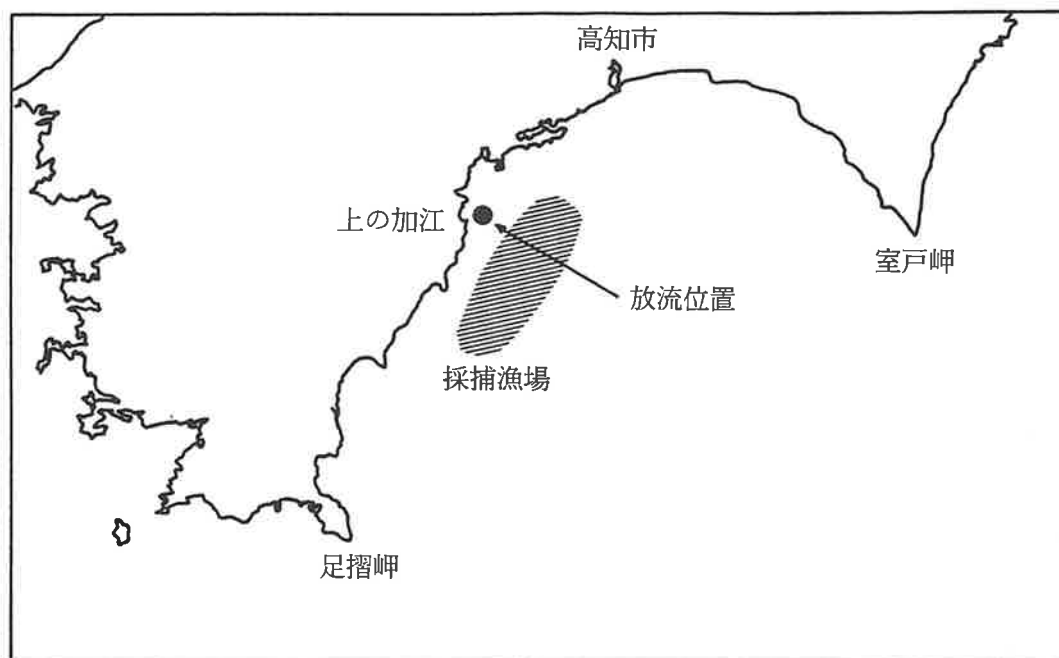


図2 標識放流位置図

○標識放流に供したヨコワ新仔

上の加江では養殖種苗としてのヨコワの小割飼育の経験が豊富である。曳縄船で活かし持ち帰った魚は、この経験上、10日程の飼育で生存率が8～9割となるような基準をもとに、放流魚として適さないとされる次のような魚は除外した。

- ① 漁獲時に目に釣針が掛かり、目が赤濁しているもの
- ② 体色が地先の水色にあわせて変化せず、黒っぽいもの
- ③ スレで腹部が赤くなっているもの
- ④ 活け間で他の魚と同じ様な泳ぎ方をせず、フラフラしているもの

○標識装着法

釣獲したヨコワを素手でさわるとその後の「活き」が悪いことが経験上知られているので、作業

性も考慮して次の方法により行った。

- ① 50cm×30cm×深さ10cmのプラスチック容器に深さ4cmのスポンジマットを敷き、その上に70cm×70cm程の柔らかいビニールを広げる。
- ② 柔らかい素材で作ったタモで魚をすくいその上に載せる。
- ③ 広げたビニールの片方で魚の前半分を覆い、ビニールの上から手で魚を抑え、標識を装着する。
- ④ 標識を装着した魚はビニールに包み載せたまま海面近くまで運び、海に流し込むように放流する。

3. 2 標識魚の再捕

平成6年3月末までの再捕報告は、放流1日後上の加江の小型定置網で再捕されたもの、放流7日後と33日後に佐賀町沖5～10マイルで曳縄により再捕された2尾の3例のみで、別事業による過去のヨコワ新仔放流と比較してかなり低い再捕率となった。

表2 標識魚再捕結果（平成5年3月31日現在）

標 識 No.	再捕年月日	再 捕 位 置			再捕時の魚体		経過 日数	再捕 漁具	備 考
		北緯	東経	備 考	体長 (cm)	体重 (kg)			
KOCHI JAPAN 0404	1993 8 13	33 16.7	133 15.8	上の加江湾	—	—	1	S 3	
KOCHI JAPAN 0392	1993 8 22	33 00.8	133 18.4	佐賀沖10マイル	23	0.25	6	H 5	
KOCHI JAPAN 0089	1993 9 15	33 01.9	133 12.5	佐賀沖5マイル	37	1.10	33	H 5	

S 3 : 小型定置網

H 5 : 曳縄

